

白岡市教育長賞

「未来への責任」

白岡市立善我中学校3年

齊 藤 愛 梨 杏

「え、教科書にお金を払うの。」

私は本当に驚いて、大きな声を出してしまった。この春、兄が高校二年への進学準備をしていた時、様々な提出物の一つとして教科書購入票を書いていた。しかも、全科目の教科書の合計金額は1万円を超えていた。気が付かなかったけど、昨年高校に入学した時も同じだったらしい。中学生の教科書とは厚さも違うけれど、かなり高額だ。

中学三年の私にとっては、教科書は小学一年生のときから、ずっと無料でもらえるものだった。でもそれは、税金で国が義務教育諸学校の教科書費用を負担してくれていたと初めて知った。高校は義務教育ではないので、教科書は有料なのだ。

いつも何気なく使っている教科書を、よく見てみた。全ての教科書の裏表紙に、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれていた。教科書は私たちが社会を支える立派な大人に育つために、国が期待を込めて貴重な税金を使ってくれているのだ。

文部科学省のホームページで調べてみると、令和元年度の教科書無料配布予算は四四八億円で、全国の小中学生約九七一人に、約一億冊の教科書が無料で配布されていた。予想以上に、高額な税金が使われているのだ。

私はこの事実を知って、反省した。大好きな英語は集中して授業を受けるけれど、苦手な教科は、早く授業が終わらないかな、と考えていることがあるからだ。まずは、日々の授業をしっかりと受けることが、期待に応える一歩となるはずだ。

教科書には、障害をもった生徒達が少しでも授業を受けやすくするように、拡大教科書や点字教科書、ペンでタッチすると読める音声教科書などもあり、それらも無料で配布されている。もちろん税金が使われている。

私の通う中学校では、生徒一人一人にタブレットが配布されている。スマホ世代の私たちには当然だと思っていたけれど、実はそのタブレット購入費も税金からなのだ。

ほぼ毎日使うタブレットは、ていねいに使用しないと故障してしまう。先生方が年に何度か修理を呼びかけてくれ、毎回かなり多くの生徒たちが、修理を希望する。私も一度だけスイッチが入りにくくなり、修理をお願いした時がある。

修理が終わりタブレットが返却された時、先生方から、修理費合計が予想以上に高額だったと聞いた。修理費も、税金から支払われているのだ。私達一人一人がそのことを少し意識できるようになれば、今度の修理代は減り、税金を

他に必要な物に使えるはずだ。

税金には限りがある。私達中学生の為にも大切に使われていることに感謝して、何事にもしつかり取り組んでいきたい。私たちに求められる「未来への責任」として。